はじめに

神奈川大学は 2018 年度の国際交流事業として「シンポジウム『言語教育におけるコロケーション～ロシア語と日本語』」（事業代表者：堤正典）を採択し、同シンポジウムを 7 月 14 日に開催した（次ページのポスターを参照）。シンポジウムにはロシアから 3 名の研究者を招聘し、日本国内の研究者とともに報告を行い、また、国内の研究者やフロアーからのコメントを受けた。ロシア語教育とコロケーションは、2015 年から 2017 年の科研費の研究課題で（「ロシア語教育における基礎語彙コロケーションの研究」課題番号：15K02759、研究代表者秋山真一（上智大学））、このシンポジウムはその成果の一部を公表する場もかねていた。

ロシアからは、神奈川大学の学術協定校である国立アストラハン大学からマリヤ・ラプチェヴァ教授、ロシア科学アカデミー東洋学研究所からはアンナ・パーニナ研究員とアレクセイ・ズヴェレフ研究員を招聘した。国内の報告者としては上智大学の秋山真一准教授と、神奈川大学の堤正典が登壇した。コメンテーターは、神奈川大学の高木南欧子特任准教授、神奈川大学・東京外国語大学の阿出川修嘉非常勤講師、慶應大学の朝妻恵里子専任講師であった。シンポジウムの司会は神奈川大学の田中孝史非常勤講師が務め、シンポジウムの運営には堤とともに神奈川大学の小林潔非常勤講師があたった。

神奈川大学の国際交流事業として堤が事業代表者を担当してロシアから研究者を招いての国際シンポジウムは、2012 年 3 月（「日露の交流と言語教育　～ロシア語の新たなる国際性」）、2014 年 7 月（「言語教育におけるレアリア～ロシア語と日本語」）に続いて 3 回目となる。今回も成功裏に終了することができたのは関係各所のご尽力のおかげと感謝の意を申し上げる。

さて、この「報告論集」はシンポジウムの報告者・コメンテーターが寄稿したものであるが、必ずしもシンポジウムでの報告・コメントそのものではないことをお断りしておく。シンポジウムでの報告に対する様々なコメントなども踏まえて、新たに展開した部分も含まれる場合がある。いわばシンポジウムから一歩進化した論集となっている。

また、「講演記録」はシンポジウムの前日に神奈川大学人文学会とロシア語研究会「木二会」との共催で行った講演会のマリヤ・ラプチェヴァ教授による講演の原稿である。

堤　　正 典

2018年度神奈川大学国際交流事業
シンポジウム・ユーラシアを研究する

言語教育におけるコロケーション
～ロシア語と日本語

日時：2018年7月14日（土）　13:00～17:30（12:30開場）
会場：神奈川大学横浜キャンパス17号館215会議室
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL 045-481-5661(代)
東急東横線白楽駅下車徒歩13分
http://www.kanagawa-u.ac.jp/access/

13:00　開会
開会挨拶　兼子　良夫（神奈川大学学長）

13:15-13:45
秋山　真一（上智大学）
「外国語学習とコロケーション」
13:45-14:40
マリヤ・ラプチェヴァ（アストラハン大学・ロシア）
「慣用句システムの単位としてのコロケーション」（ロシア語・通訳付き）
14:40-15:10
アンナ・パーニナ（ロシア科学アカデミー東洋学研究所）
「非専門家の日露翻訳とコロケーション」

＜休憩＞

15:25-15:55
アレクセイ・ズヴェレフ（ロシア科学アカデミー東洋学研究所）
「日本語とロシア語におけるシンタクス単位の種々のカテゴリーと読点の結合について」
15:55-16:25
堤　　正典（神奈川大学）
「語の多義性とコロケーション」
16:25-16:55
コメント
高木 南欧子（神奈川大学）
阿出川 修嘉（神奈川大学・東京外国語大学）
朝妻 恵里子（慶應義塾大学）
16:55-17:30　全体討論
閉会の辞　堤　　正典（神奈川大学）

司会　田中　孝史（神奈川大学）・小林　潔(神奈川大学)

使用言語：日本語（一部ロシア語・通訳付き）

主催　神奈川大学

来聴歓迎・事前登録不要　　お問い合わせ：ku.russky@gmail.com（神奈川大学・堤正典）